

マンガと  
コラムでみる

日本遺産

STORY #086



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

# 日本ワイン 140年史

茨城県  
牛久市

山梨県  
甲州市

国産ブドウで醸造する和 문화の結晶

140-years history of Japanese wine

Wine that is made using Japanese grape is the fruit of Japanese rich culture



にほん

# 日本ワイン

ねんし

# 140年史

いばらきけんうしくし やまなしけんこうしゅうし  
茨城県牛久市 × 山梨県甲州市

日本遺産



第1部 牛久シャトー編

第1話 神谷傳兵衛

わあーっ！  
すごい  
建物！

ヨーロッパの  
古いお城みたい…



よし早速  
ワインを飲み…



ようこそ！  
牛久シャトーへ！



いや！日本遺産に  
触れてみよう！



そんなことより  
日本初の本格ワイン醸造場  
「牛久シャトー」の歴史を  
紹介しようじゃないか

はっはっは



こんにちは！  
おじいさん誰??

時は明治6(1873)年  
 横浜のフランス人が  
 経営する洋酒醸造場

彼の名は  
 神谷傳兵衛(17)※



※当時は未成年や飲酒禁止の決まりがまだありませんでした。



当時高価だったワインを  
広めるために奔走する傳兵  
衛の活躍がここから始まる



ぶどう酒※で  
たくさんの人を  
幸せにしたい！

ワインを少しずつ飲み  
元気を取り戻し、その  
効能に傳兵衛は驚いた



気軽にちよつと  
一杯飲めるのが  
たまらないねえ

ホント！



お酒を身近にするために、  
一杯を量り売りにし、その  
アイデアがヒット！

明治13（1880）年  
傳兵衛は東京浅草で  
「みかはや銘酒店」（後の  
神谷バー）を開業



今度はぶどう酒を売ろうと  
思うんだ！ちよつと  
飲んでみてくれない？



※この物語の「ワイン」と「ぶどう酒」は同じ意味です。



誰にでも飲みやすく健康をイメージした飲み物にするんだ!

そうか! もっと日本人好みの甘い味にしよう!



ちょっと渋いねえ このぶどう酒ってのは...



こりやあ、おいしい!! 気持ちよく酔えるねえ



明治14(1881)年 傳兵衛は輸入ワインにハチミツや漢方を加えた「蜂印葡萄酒」を発売する



それでも傳兵衛は満足しなかった

ワインを国内で醸造し、一大産業にしたいという大きな夢があったのだ

つづ 第2話に続く



後に「蜂ブドー酒」と呼ばれる甘味ぶどう酒は大ヒット 日本人がワインを知るきっかけをつくった



column

神谷傳兵衛

# 国産ワインの製造と普及に生涯かける

幼い頃から家を出て働いた神谷傳兵衛は、8歳にして酒造家になることを決意します。苦勞を重ねたある日、突然激しい腹痛に襲われました。そのとき口にしたのが1杯のワイン。元氣を取り戻した傳兵衛はその効能に驚き、当時高価だったワインを多くの人に飲んでもらおうと奔走しました。



■神谷傳兵衛



■神谷傳兵衛墓地跡と記念碑  
墓は東京に移され、偉業を称える記念碑が地元住民によって建てられました

走りました。

試行錯誤の結果、日本人の味覚に合わせてつくった「蜂ブドー酒」が大ヒット。さらに国内でワインの製造から醸造までを一貫して行う前代未聞の挑戦を始めました。本場の技術を取り入れるため、婿養子の傳藏をフランスに派遣。ぶどう栽培に適した場所を探し求め、現在の牛久市にたどり着いたのです。明治36(1903)年、傳藏の知識をもとに、ポルドーの最新様式を取り入れた本格的なワイン醸造場「牛久シャトー」が完成。ワインの国産化に日本で初めて成功し、大規模生産を実現しました。



蜂印香竈葡萄酒

大ヒットした甘味ワイン  
名前に込めた親への感謝



24歳で独り立ちし、浅草に「みかはや銘酒店」を開いた傳兵衛は、国内で洋酒の需要が高まっていることに目をつけました。樽詰めの輸入ワインにハチミツや漢方薬を加え、日本人の口に合うよう改良した甘味ぶどう酒を開発。「蜂印香竈葡萄酒」と名付けて発売したところ、蜂ブドー酒として親しまれる人気商品となったのです。

「蜂印」という名称は、かつて傳兵衛が「Beehive(蜂の巣箱)」というフランス産ブランデーを扱ったことにちなんでいます。「香竈」は父兵助の俳句の雅号。「豊かなくわしい香りがひっそりと隠れ忍んでいるさま」という意味があり、甘いワインには「親



販売宣伝用ポスター

への恩を忘れない」という思いが込められました。

第1部 牛久シャトー編

第2話 神谷傳蔵



お父さんだって傳兵衛さんに  
負けない情熱で仕事して  
るよね！



神谷傳兵衛さんの  
ワインにかける情熱は  
すごいわね！



傳蔵！いつか日本に  
本格的なぶどう酒の時代がくるぞ

傳兵衛

明治27(1894)年



はっはっは、今度は傳兵衛の婿養子、  
神谷傳蔵の物語じゃ



そうだぞーっ！



行って  
きます！！

はいっ！！

こうして傳蔵は  
フランスへと向かった



よくぞ言った！ならば  
フランスでぶどう栽培から  
ぶどう酒造りまで  
全て勉強してくるといい！

ドゥン

傳蔵

私もそう思います！  
そのために、日本人による  
日本のぶどう酒を造りましょう！

フランス



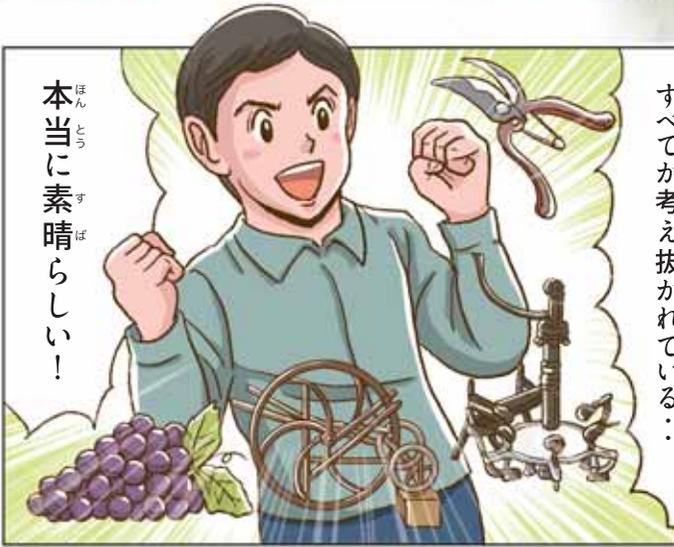
「デュボワ商会」のボルドー・  
カルボンブラン村醸造場



傳蔵はぶどうの栽培  
から学んでいた



道具から技術、そしてこの土地、  
すべてが考え抜かれている…



本当に素晴らしい！

学ばべきものはぶどうの栽培方法だけでなく、ワインの醸造機械の使い方、醸造技術など多岐にわたった

そして明治30(1897)年  
傳蔵は多数の資料・醸造用具  
と苗木を持参して帰国する



戻りました！





ついに見つけたぞ！  
ぶどう作りに  
適した土地を!!!

こここれは!!?

よく帰った！

グッ



さあ  
夢をかなえようか！

傳兵衛は傳蔵がフランスへ  
留学中、ぶどう作りに適し  
た土地を探していたのだ



やるぞー!!  
ここから本格ぶどう酒を  
造るんだ！



茨城県稲敷郡岡田町（現牛久  
市）にある約120ヘクタール  
の原野の開墾をはじめ

そしてフランスで学んだ  
傳藏の知識をもとに  
牛久醸造場の建設がス  
タートする



ぶどうやぶどう酒を効率よく  
運べるように、ぶどう園と醸造場、  
牛久駅をトロツコで結ぶんだ！



こうして傳藏の知識がふん  
だんに活かされた牛久醸造  
場（牛久シャトー）が明治36  
（1903）年に、2年の歳  
月を経て完成する



醸造場！

ボルドーの  
最新様式を採用！！



貯蔵庫！



地下だから  
温度が一定で  
広い！！

瓶詰め出荷！

牛久駅に  
近いので、  
すぐに出荷！！



よし！  
日本初の  
シャトー※の完成だ！



※ぶどう栽培からワイン醸造、瓶詰め、出荷までを行うワイナリーのこと。

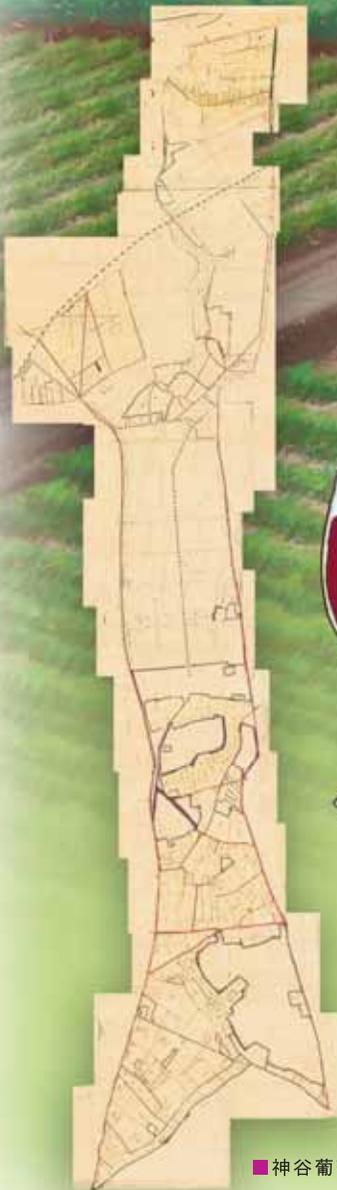
牛久市では神谷傳兵衛が建設した日本初のシャトーにおいて、ぶどう栽培から瓶詰めまで一貫した体制を確立し、大規模生産を実現した



かっこうはくらんかいじゆしょうはい  
 ■ 各国博覧会受賞牌



ぶどうしゅ  
 ■ 牛久葡萄酒



えんじょそくず  
 ■ 神谷葡萄園実測図





あなたは  
神谷傳兵衛さん!!

うん！よくわかった!!  
…もしかして!!

ネー



どうだい？牛久シャトーに  
ついてわかつてもらえたかな？



ありがとう!!  
神谷さん  
じゃあ行ってみる!!

山梨県甲州市が  
大きな役割を担っている!  
ぜひその目で確かめてほしい!!



日本ワインを語る上で  
ここ茨城県牛久市と  
もうひとつ



はあ  
いいなあ  
大人はあ

今度は  
甲州ワインね!

■シャトーカミヤ旧事務室  
緑の屋根に赤レンガ、白い時計塔が目を引きます



■建築当初のシャトーカミヤ  
旧醸造場施設(明治36~38年頃)

事務室(現:本館)、醗酵室(現:神谷傳兵衛記念館)、貯蔵庫(現:レストラン)の旧醸造場施設3棟は国の重要文化財に指定されています。醸造場としての役目を終えた今も、ヨーロッパの古城を思わせる赤レンガの建物は、県内外からたくさんの方々の見学者を迎えるまちのシンボルです。

column

# 歴史を刻む赤レンガ 見学者迎えるシンボルに



牛久シャトーは明治36(1903)年、実業家の神谷傳兵衛が建設した日本初の本格的ワイン醸造場です。フランスに現存した醸造場モデルに、ボルドー地方の技術を用いて、ぶどうの栽培からワインの製造・瓶詰めを一貫して行いました。

構内にはぶどう畑と醸造場を結ぶトロッキ列車が走り、その一端は牛久駅まで延びていました。シャトーで働く人たちは活気にあふれ、ここから出荷される質の高いワインは、たちまち全国で評判を呼びました。



■トロッコ軌道跡  
現在は生活道路として利用されています



試験研究が行われたメトル・ドウ・シエの部屋

う栽培に適した土壌サンプルも多数保管され、その中の一つに勝沼(山梨県甲州市)の土が含まれていました。小さな瓶に収められた土が当時から、国産ワインの普及に力を注いだ2つのまちを物語る語っています。

本格的なワインが国内に普及していなかった当時、海外の醸造用具を正しく使い、製造工程をきちんと管理する司令塔が欠かせませんでした。その役目を担ったのが、「メトル・ドウ・シエ」と呼ばれる製造責任者です。

1903年の牛久シャトー建設と同時にメトル・ドウ・シエの部屋がつくられ、そこで牛久産ワインの品質向上のためのさまざまな試験研究が行われました。ぶどう栽培に適した土壌

ワイン造りにも司令塔がいた!  
ライバル勝沼の土も研究

メトル・ドウ・シエ



勝沼の土壌サンプル

column

# 国産ワイン誕生に一役 明治時代の醸造用具たち

日本人の口に合ったワインを造るには、国内でぶどう栽培からワイン醸造までを一貫して行う必要があると考えた傳兵衛は、本場フランスに婿養子の傳蔵を派遣。3年後に帰国した傳蔵は、現地で学んだ知識や技術を遺憾なく発揮しました。

理想とする味の実現に欠かせなかったのが、当時最新式の醸造用具。良質なぶどうを栽培し、しっかりと製造工程を守って管理することにより、日本にいなながら「本場のワイン」が味わえるようになったのです。



■手動式小型起重機  
まじゅうき  
収穫されたぶどうを醸造場まで運んだ後、荷揚げするために使用されました



■あっさきき 压榨機  
破碎して枝や茎を取り除いたぶどうに上から少しずつ圧力を加え、果汁を搾り出しました

■だせんまき コルク打栓機  
ワインが注ぎこまれた瓶のコルクを打ち込みました

品質の高さで世界が注目

牛久葡萄酒



牛久シャトー完成後、傳兵衛は持ち前の経営手腕を発揮し、ワインの生産を順調に伸ばしていきました。当時珍しかった最新式の設備や建物は全国から注目を集めました。普及を後押ししたのは、フランスで身に付けた傳蔵の知識や技術に裏付けられた確かな品質でした。

明治時代には、イギリス水晶宮で開催された万国衛生食料品博覧会に「牛久葡萄酒」を出品し名誉金賞牌を受賞。フランス・パリの博覧会でも金賞牌に輝くなど、

ここで製造されたワインは国内だけでなく海外でも高く評価されました。100年以上前に造られた「牛久葡萄酒」は今も、未開封の状態で大切に保管されています。



各国博覧会受賞牌

第2部 甲州市勝沼編

第1話

高野正誠と土屋助次郎

山梨県甲州市



わあーっ！  
ここが甲州市！  
ぶどう畑が  
いっぱいあるよーっ！



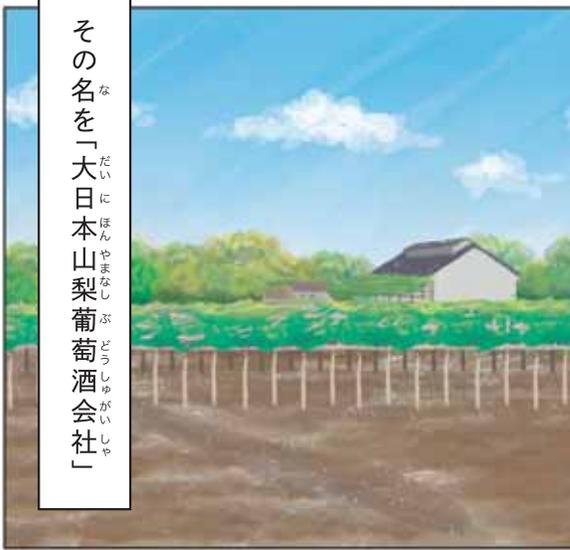
ははっ  
わたしは宮崎光太郎と申す  
甲州市は私が紹介するぞ！



まあイケメン！



ここは宮光園じや  
ようこそ甲州市へ！



その名を「大日本山梨葡萄酒会社」

時は遡り、明治10（1877）年  
江戸時代からぶどうを栽培し  
ていた勝沼地域に日本初の民間  
ワイン醸造場が設立



よろしく  
お願いし  
ます！



ふたりの人はまず昼夜を問わずフランス語を勉強した

ボンジュー

メルスィー



会社は同年10月10日に高野正誠、土屋助次朗（後の龍憲）をフランスへ派遣

土屋助次朗（19）

高野正誠（25）



その情熱はひとつの出会いを生む

ピエール・デュポン



まなぶの地・トロワ市



ブドウノサイバイトハ...



メルスィー

オオッ！



ワタシガワインノツクリカタオシエマース！

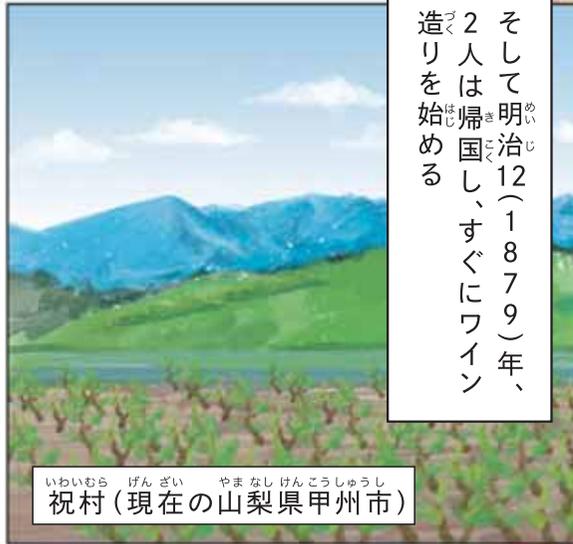


ふたりは実費で半年間留学を延長し、実際にワインの仕込みまで体験した



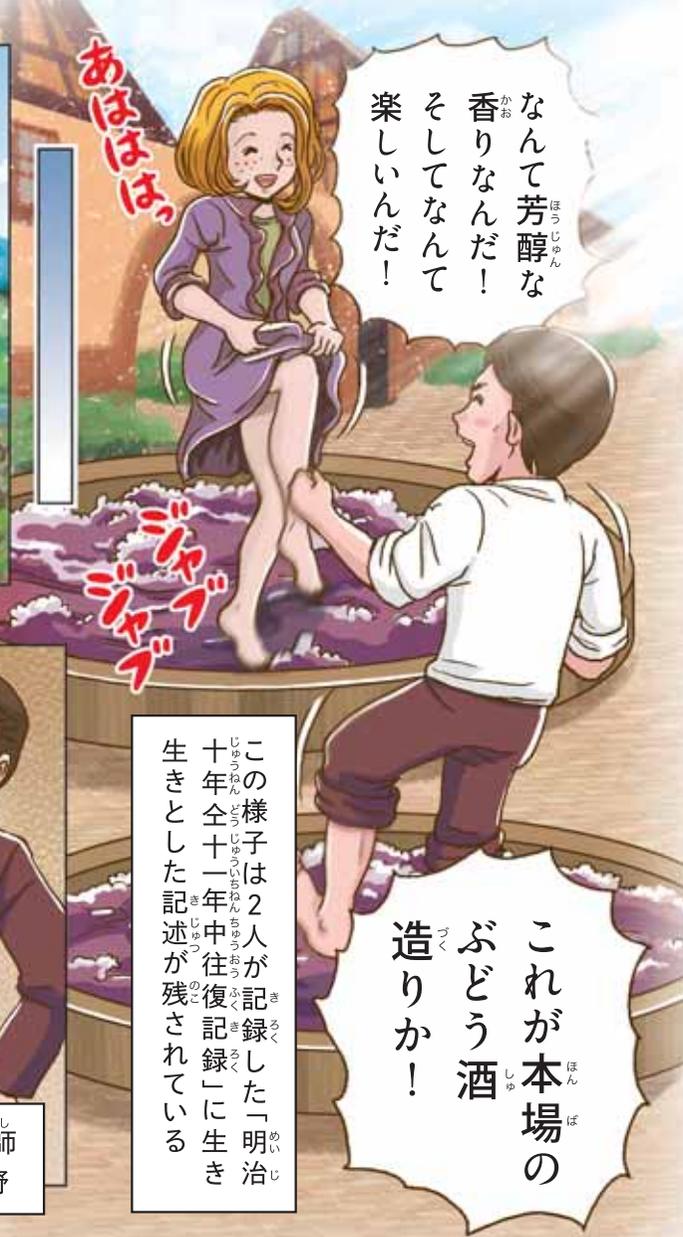
こうしてピエールのもとで難解なぶどうの栽培法と醸造法を懸命に学んだ

うんうんなるほど!!



そして明治12(1879)年、2人は帰国し、すぐにワイン造りを始める

いわいむら げん ざい やま なし けん とうしゅう し 祝村(現在の山梨県甲州市)



なんて芳醇な香りなんだ! そしてなんて楽しいんだ!

あはははは

ジャブジャブ

これが本場のぶどう酒造りか!



どうだ!?



醸造主任技師となった高野

この様子は2人が記録した「明治十年全十一年中往復記録」に生き生きとした記述が残されている

できたぞ！  
フランス仕込みの  
本格ぶどう酒だ！



2人は念願の国産ワイン  
を完成させた（このワイン  
は日本最古のワインとし  
て今でも現存している）



そしてこのワインの完成  
を皮切りに、「大日本山梨  
葡萄酒会社」は明治13  
（1880）年にかけてワイ  
ンを大量生産する

そして会社は大きな飛躍を  
遂げる…：はずだった…

ええっ!!!

会社を  
解散っ!?



順調に第一歩を歩ん  
だかに思われたワイ  
ン生産だったが、技術  
面の不足や日本人に  
まだワインになじみ  
がなかったために、明  
治19（1886）年に  
会社を解散すること  
になってしまった

先輩!!

一緒にぶどう酒の質を  
高めませんか!?



君は…!!



第2話に続く



column

高野正誠と土屋龍憲

# 2人の情熱が日本 ワイン黎明期をつくる

明治10（1877）年、山梨

県祝村（現在の甲州市勝沼

町）に日本初の民間ワイン醸

造会社「大日本山梨葡萄酒会

社」が設立されました。会社

は同年、ワイン造りを学ぶ

ため高野正誠（25歳）と土屋

助次朗（19歳、後の龍憲）の2

青年を、ワインの本場・フランスへ派遣しました。

高野と土屋の渡航を手配

したのが、農商務省の官僚と

してパリに留学していた前田

正名（後に山梨県令〓知事）

でした。現地では、前田が懇

意だった農学者・苗木商の

シャルル・バルテが、2人に

ヨーロッパのぶどう栽培・ワ

イン醸造の手ほどきをしま

した。その後、バルテの紹介で

デュポンの農園に入りまし

た。

情熱を持って出発した2人

は苦学の末、約1年半の短期

間で技術を学び帰国。日本に

おけるワイン造りの基礎を

築きました。

甲州ワインの日

明治10年10月10日に  
横浜港出発、フランスへ



明治12年産の日本ワイン

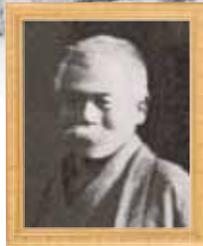


高野正誠

土屋龍憲



シャルル・バルテ



前田 正名



高野・土屋がたどった横浜からパリへの経路

たのは5月8日でした。2人がフランスに向け旅立った10月10日を、甲州市は「甲州ワインの日」と定めています。

高野と土屋を乗せたフランス汽船タイナス号は、明治10（1877）年10月10日に横浜港を出発しました。香港で乗り換えパリに向かい、航路は45日間もかかったといえます。フランス到着が11月24日、その年の醸造は終わっていました。派遣は1年間の約束でしたので、勉学の期間を約半年延長して、ぶどうの収穫、ワインの醸造に実際に立ち会い学業を終えました。2人がマルセイユ港を出航したのは明治12（1879）年3月24日、横浜港に帰り着いたのは5月8日でした。2人がフランスに向け旅立った10月10日を、甲州市は「甲州ワインの日」と定めています。



さて、いよいよわしの出番じや



えっ会社がなくなっちゃった…



明治19(1886)年、2人は大日本山梨葡萄酒会社の醸造設備などを譲り受け、甲斐産葡萄酒醸造場を新設した



彼らの勝沼の地への熱い思いが日本ワインの新しい歴史を紡いでいくことになる



宮崎光太郎です！ぶどう酒の醸造を引き継ぎましょう！

君は販売部の…

土屋助次朗



本格ぶどう酒です！飲んでください！

：がしかし、なかなか軌道には乗らなかった…



いい仕上がり！甲斐産ぶどう酒の完成だ！！

そして造ったワインの販路を東京に求め、ワイン販売の専門店「甲斐産商店」(後の大黒葡萄酒)をオープンさせる

業績に好転の兆しが見えない  
中、明治23(1890)年、宮崎  
は土屋と別れて独立

翌々年、自宅の裏手に宮崎葡萄  
酒醸造場(現在の宮光園)を建  
設し、自らワイン醸造を始めた

宮崎は独創的な販売戦略で  
いかなく経営手腕を発揮した

良質なぶどう  
から造ったぶどう酒は、  
からだにも良いはず  
医学博士に分析してもらおう!

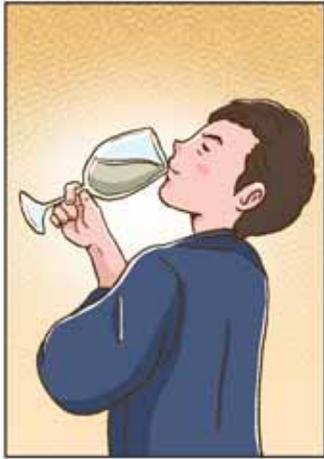
分析により「病中病後に  
良い」と、高い評価を得るこ  
とができた  
その結果：：

帝国医科大学  
(現在の東京大学医学部)様  
ご成約!

全国の公・私立病院様  
お買い上げ  
ありがとうございます!

さらに宮内省(当時)御用  
達の栄誉を賜り、明治27  
(1894)年には明治天皇  
御大婚25年の祝典でワイン  
100本を献上した

宣伝効果も相まって、  
甲斐産葡萄酒の名を  
押し上げた



輸入ワインには頼らず、原料として自家製ワインを使用していることを前面に売り出していく



でも原料だけでは  
こだわるぞ

一方で、神谷傳兵衛が造った甘味ぶどう酒に影響され、そちらにも力を入れていく



こうして、ハチミツや漢方薬を混和した甘味ぶどう酒「甲斐産エビ葡萄酒」や滋養ぶどう酒「甲斐産薬用帝国葡萄酒」などを世に出し、その成功によって業績を一気に盛り返した

生産能力を増強するため、翌年、宮崎第二醸造場（現在のシャトー・メルシャンワイン資料館）も新設した  
鉄道開通とときを同じくして操業を始めた牛久醸造場へのライバル心もあったのかも

明治36（1903）年に  
中央線（新宿〜甲府間）が開通

※勝沼駅（現勝沼ぶどう郷駅）は大正2（1913）年に新設されました。



かつてワインやぶどうの輸送手段としての役割を担ったと書いてあるぞ

祝橋、  
トンネル遺構、  
馬の水飲み場…



718年と  
いうと…

栽培は1300年も  
歴史があるのか！



歩いてみると、  
和風の建物のワイナリーが多いわ

伝統あるワイナリー  
原茂ワイン、丸藤葡萄酒工業、  
勝沼醸造、くらむぼんワイン



こんにちは

建物が昔の  
農家みたいですね

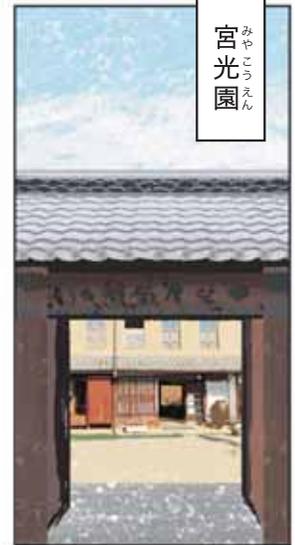


このワイナリーに  
入って聞いてみよう



大善寺 本堂前





良いところに  
気付いたな！



## 分業制

それは、勝沼ではワイン  
醸造の始まりから、  
ぶどうは農家が栽培し  
それを醸造家が  
買って仕込むという  
『分業制』を採っていたからじゃ



勝沼のワイン造りは  
明治12年に始まってから、  
ずっと絶やすことなく  
現在まで続けられているのじゃ

広いぶどう畑とともにいくつものワイナ  
リーがあるという勝沼の風景は、地場産  
業として江戸時代から続いていたぶど  
う栽培にフランスからのワイン醸造が加  
わって生まれた

ワインの産地はたくさんあるけど、  
140年以上も続いているのは  
勝沼だけなのだ

みんなの思いがこの  
勝沼をつくったんだね！



早く大人になって  
ワインを飲んでみたい！

うわーっ

はっはっは、そうしたら  
もつこの勝沼を味わえるね！



column

甲州市 宮光園

# 近代ワイン産業の礎と 宮崎光太郎の軌跡

宮崎光太郎は、日本初のワイン醸造会社「大日本山梨葡萄酒会社」でフランスから帰国した高野正誠、土屋助次郎（後の龍憲）とともにワイン醸造技術を学びました。

明治19（1886）年に会社が解散すると、土屋とワイン醸造を引き継ぎました。明治21（1888）年、東京日本橋に「甲斐産商店」を置き、販売普及に努めました。しかし、明治23（1890）年に土屋と分かれて独立、宮崎が甲斐産商店を続けました。

明治25（1892）年には自宅（現宮光園）敷地内に「宮崎葡萄酒醸造場」を設け、自らワイン醸造を始めました。翌年には500石（約9万リットル）を醸造した記録があります。

また、明治37（1904）年には「宮崎第二醸造場」（現メルシャンワイン資料館）を建設。前年に中央線（新宿―甲府間）が開通し、ワインの大量出荷が可能になったため、事業を拡大しました。

宮崎は勝沼の地に対する熱い情熱をもって、その生涯をワイン醸造と普及に捧げました。

## 最古のぶどう品種

甲州種ぶどう

甲州種ぶどう（甲州ぶどう）は、日本最古のぶどう品種で、日本の白ワインでは仕込みに最も多く使われています。発祥伝説は、養老2（718）年の大善寺説と文治2（1186）年の雨宮勘解由説が知られています。県内で最初に醸造された原料とされます。平成22（2010）年にO・V（国際ぶどう・ぶどう酒機構）の品種リストに登録されました。

## ルーツに共同醸造場

ブロックワイナリー

ブロックワイナリーは、個人で醸造していたものを区や組を単位とした組合に統合した共同醸造場。甲州市勝沼町では、その仕組みに起源を持つワイナリーも多いのです。柏和葡萄酒もその一つで、甲州ぶどう発祥伝説がある大善寺で醸造されており、寺の参拝や宿坊で提供されるほか、地区の祭事での御神酒として振る舞われています。

宮光園で発見された大正期の  
35ミリ映像フィルムから

▶ 醸造したワインは、たるに詰めて鉄道で東京まで運んで工場に運んでいた



◀ 約200人の観光団を受け入れ、ぶどうの下のワインとジュースでもてなした



大黒天印甲斐産葡萄酒と甲斐産エビ葡萄酒

column

# 独創的な販路拡大 観光ぶどう園の先駆け

庶民になじみがなくワインが売れない時代、経営者の視点を持つ宮崎光太郎は、すでに東京で人気のあった甘味ぶどう酒の製造を考えました。さらに、明治24(1891)年に滋養飲料として帝國医科大学の注文を、翌年には宮内省御用達をそれぞれ受けるなど、独創的な販路拡大に努めました。事業の拡大は、これまでにこだわってきた本格ワインの醸造だけでなく、多様な商品の生産を可能にしました。本格ワインは「大黒天印」、甘味ぶどう酒は「エビ葡萄酒」、滋養ぶどう酒は「滋養帝國葡萄酒」のブランド名で出荷されました。

また、宮崎はワイン産業を観光事業へと展開。大正2(1913)年に勝沼駅が開業すると、ぶどう狩りとワイン工場の見学という観光のスタイルを考え、観光団を招きました。現在の観光ぶどう園の先駆けとされ、明治時代から宮光園には多くの皇族・賓客や著名人が遊興に訪れました。

川上善兵衛

高野・土屋と親交  
マスカット・ベリーA開発



明治23(1890)年に新潟・岩の原葡萄園を開設した川上善兵衛は、「日本のワインぶどうの父」と呼ばれています。善兵衛は、フランスから帰国した高野正誠、土屋龍憲とも親交がありました。明治20(1887)年、19歳の善兵衛は山梨を訪れ、土屋の家に泊まり込んで醸造法を学びました。地元に戻った善兵衛は日本の風土に適したワインの原料となるぶどうを求めて研究、昭和2(1927)年、マスカット・ベリーAをはじめとする日本独自の改良品種の開発に成功しました。マスカット・ベリーAは現在でも山梨で多く栽培されており、日本で醸造される赤ワイン用ぶどうの代表品種となっています。平成25(2013)年には、甲州ぶどうに続いてOIVの品種リストに登録されました。



勝沼でぶどうを視察する川上善兵衛(左)



牛久市ではぶどう栽培から  
瓶詰めまで一貫した体制を確  
立し、大規模化を実現した

甲州市では栽培  
業と醸造の分  
業を地域ぐる  
みで行い、広  
なぶどう畑と  
ワイナリー群  
を築き上げた

明治時代のはじめ、民間の醸造場  
が立ち上がったのと時を合わせ、  
政府主導のもとに官営<sup>※</sup>のワイン  
醸造も始まっていた。しかし、官  
営は間もなく解散。その技術は  
伝承されなかった



明治時代の中ごろ、中  
央線と常磐線が開通  
して首都圏への大量  
輸送体制を確立。牛久  
産ワイン、甲州産ワイ  
ンともに大量に出荷  
されていた



※政府が経営すること

いろいろな教えてくれて  
ありがとう！  
神谷傳兵衛 宮崎光太郎の両雄が普  
及させた甘味ぶどう酒が広まったの  
ち、日本にも徐々に本格ワインが浸  
透。昭和50年ごろからは本格ワイン  
へとニーズは移り、今に至っている



牛久市、甲州市それぞれが  
持つ地域の特色を生かし、  
競い合う形で日本社会に  
ワインが普及していったのね！



牛久市と甲州市は、官営ではなし  
えなかった国産ワイン製造を民間  
の力で成し遂げた

USHIKU CHATEAU  
千久シャトーフェスタ

それから10年後…

甲州市のブースも  
あるんだ

あれは勝沼の  
ワインかしら

日本ワインの  
これまでと  
これからに  
乾杯！



10年前は飲めなかったけど、  
全員そろって楽しめるのは  
うれしいわ

両市のワインが一度  
に楽しめるなんて！



牛久市と甲州市は  
日本ワイン  
140年史を  
きっかけに  
日本遺産の交流が  
続いているんだね



# 日本 遺産

STORY #086



# 日本ワイン140年史

国産ブドウで醸造する和 문화の結晶

140-years history of Japanese wine  
Wine that is made using Japanese grape  
is the fruit of Japanese rich culture



文化庁  
Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan

令和2年度  
文化資源活用事業費補助金  
(観光拠点整備事業)

## 構成文化財

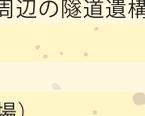
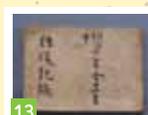
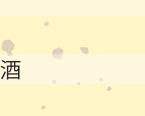
### 茨城県牛久市

- 1 蜂印香窠葡萄酒
- 2 蜂印香窠葡萄酒販売宣伝用ポスター
- 3 牛久シャトー所蔵資料
- 4 神谷葡萄園実測図
- 5 シャトーカミヤ旧醸造場施設3棟  
(事務室・醗酵室・貯蔵庫)
- 6 牛久葡萄酒・各国博覧会受賞牌
- 7 シャトーカミヤ旧醸造場施設醸造用具
- 8 神谷葡萄園トロッコ軌道跡
- 9 神谷稲荷神社
- 10 神谷傳兵衛墓地跡及び神谷翁記念碑



### 山梨県甲州市

- 11 大日本山梨葡萄酒会社関連資料
- 12 フランス渡航誓約書
- 13 明治十年全十一年中往復記録
- 14 帰航船中日記
- 15 『葡萄三説』及び葡萄三説草稿
- 16 葡萄栽培并葡萄酒醸造範本
- 17 明治12年産の日本ワイン
- 18 龍憲セラ
- 19 大黒天印甲斐産葡萄酒と甲斐産エビ葡萄酒
- 20 旧宮崎葡萄酒醸造場施設(宮光園)
- 21 宮光園資料
- 22 宮光園35mmフィルム
- 23 メルシャンワイン資料館収蔵品
- 24 伝統あるワイナリー
- 25 勝沼のぶどう栽培用具及び葡萄酒醸造用具
- 26 柏尾山大善寺
- 27 大善寺のワイン文化
- 28 祝橋
- 29 旧大日影鉄道隧道・旧深沢鉄道隧道及び周辺の隧道遺構
- 30 馬の水飲み場
- 31 旧田中銀行社屋 旧田中銀行土蔵
- 32 旧宮崎葡萄酒醸造場施設(宮崎第二醸造場)



■ワイン文化日本遺産協議会

茨城県牛久市 〒300-1292 牛久市中央3-15-1

Tel.029-873-2111(代表)

山梨県甲州市 〒404-8501 甲州市塩山上於曾1085-1

Tel.0553-32-2111(代表)

【編集】茨城新聞社・山梨日日新聞社

【制作】アドブレン社

【印刷】サンニチ印刷